

○ 田川保健福祉事務所管内概況

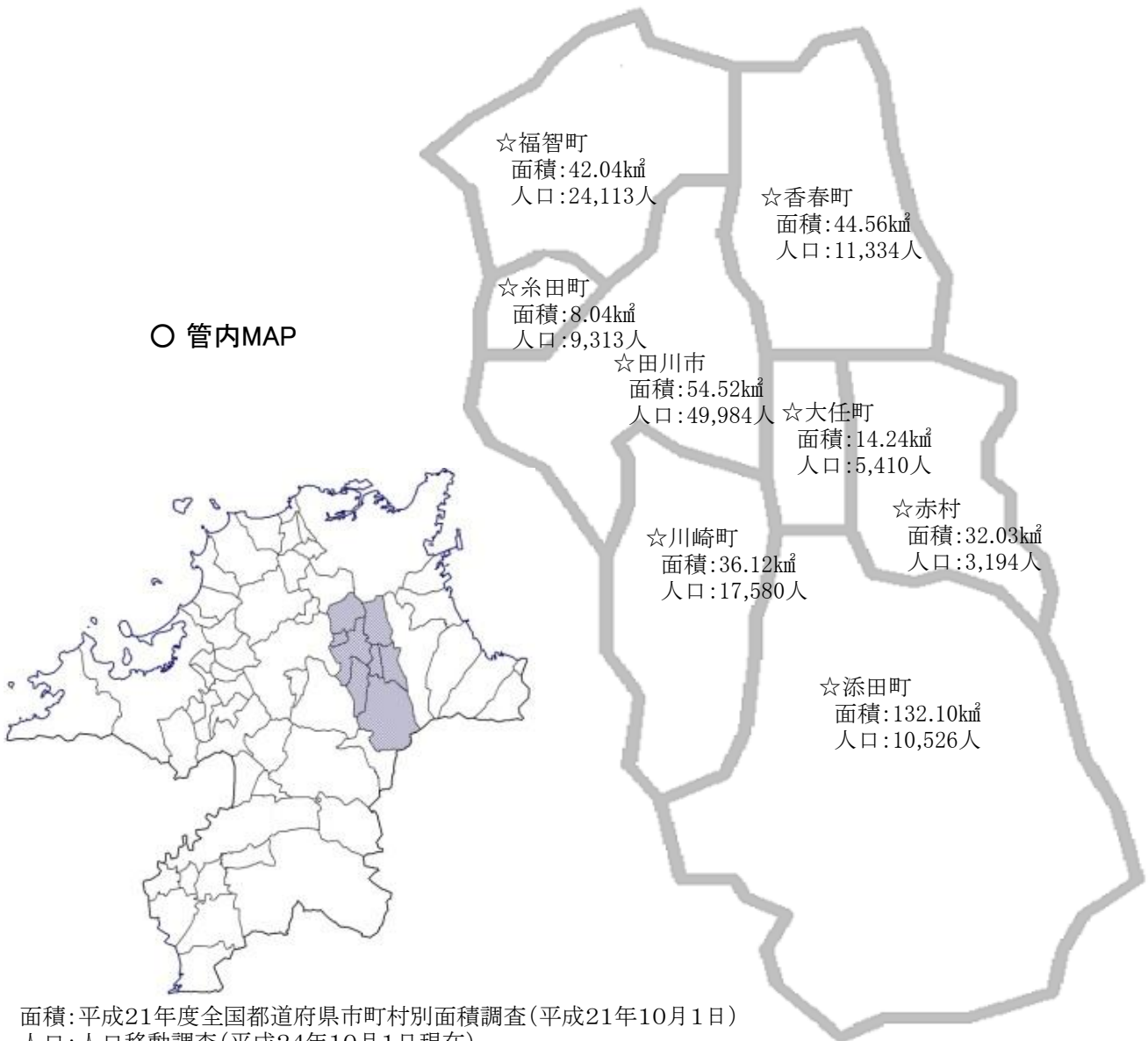
当事務所の管轄地域は、福岡県の北東部に位置する田川市郡1市6町1村であり、管内の面積は363.6km²（平成21年度全国都道府県市町村別面積調査）、平成24年10月1日現在の世帯数は、53,590世帯、人口131,454人（人口移動調査）です。

当地域は、かつて筑豊炭田の中核として、地域経済は隆盛を極め、我が国経済の原動力として大きな役割を果たしてきました。しかしながら、石炭から石油へのエネルギー政策の転換に伴い、地域経済は大打撃を受け、炭鉱閉山後50年近くを過ぎた今日も石炭産業に代わる基幹産業が起業せず、地域経済は公共事業等に依存せざるを得ないという厳しい状況が続いています。

こうした背景から、生産年齢人口の流出による人口の減少を余儀なくされ、高齢者人口の比率が高くなるなど高齢化が進んでいる状況です。

このように、炭坑閉山による後遺症により住民の生活環境は荒廃し、雇用関係をはじめ高齢化の進展による医療、介護の問題等、保健福祉全般にわたる課題を抱えていますが、管内市町村の財政的基盤は脆弱な状況です。

○ 管内MAP



保 健

平成9年4月に地域保健法が施行され、身近で頻度の高い対人保健サービスは市町村が提供し、保健福祉事務所（保健所）は広域的・専門的・技術的拠点としての役割を担っていく体制が作られました。

当所管内は少子化・高齢化が進行し、高齢化率も県平均を大きく上まわっています。平成23年の動態調査でみると粗死亡率は15.0（人口千対）、全死因の標準化死亡比（平成15年～19年）でも、男性1.19倍、女性1.12倍（厚生労働省人口動態特殊報告）と県内で最も高くなっており、保健上の課題は依然大きいものがあります。

このような状況に対し、救急医療の確保、在宅医療の推進、特定健診受診率向上等、市町村及び関係機関等と連携をしながら業務を進めています。

福 祉

当所管内は高齢者等の比率が高く、これらの人たちが地域において自立した生活を営み、いきいきと社会活動に参加できる環境づくりが求められています。

このため、施設等の社会資源を機能的に活用しつつ、健康で生き甲斐のある福祉社会づくりを課題とする取り組みを推進しています。

また、生活保護受給者等の自立促進のため、母子世帯や稼働年齢層の自立・就労・長期入院被保護者の社会復帰等の取り組みを行っています。

近年では、児童虐待やDVの防止等の取り組みの強化が求められており、関係機関等との一層の連携を図っています。

○ 田川保健福祉事務所の沿革

平成14年 9月	福岡県田川保健所と福岡県田川福祉事務所が統合し、福岡県田川保健福祉環境事務所が発足
平成21年10月	環境部門の整理統合により福岡県田川保健福祉事務所が発足（環境部門は嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所へ）

保健所

昭和17年 4月	福岡県後藤寺保健所として開設
昭和20年 3月	福岡県後藤寺保健所から分離し、福岡県添田保健所開設
昭和22年12月	福岡県後藤寺保健所が、福岡県田川保健所と名称変更
昭和49年11月	福岡県田川保健所は、総合庁舎に併設し移転
昭和62年11月	福岡県田川保健所に、検査課を設置
平成 9年 4月	福岡県田川保健所と福岡県添田保健所が、福岡県田川保健所として統合

福祉事務所

昭和17年	福岡県田川地方事務所発足
昭和26年10月	福岡県田川地方事務所に民生課設置
昭和30年11月	福岡県田川地方事務所を廃止し、福岡県田川福祉事務所を設置
昭和39年 8月	福祉2課を分室に設置
昭和40年 8月	分室移転
昭和47年	福岡県田川総合庁舎に移転、分室統合